【関東運輸局よりお知らせ】

バスの非常口扉の不具合について

山運整第１６３号の２
平成１７年７月２０日

社団法人山梨県自動車整備振興会会長　殿

関東運輸局山梨運輸支局長

バスの非常口扉の不具合について

標記について、関東運輸局自動車技術安全部長から別添のとおり通達があったので、貴会におかれましても了知するとともに、傘下会員に対してバスの点検・整備を行う際には非常口扉の機能の点検を確実に実施するよう周知徹底方お願いします。
〔平成１７年５月新潟市内において走行中の貸切バスの非常口扉が突然開放するという事故が発生したため、北陸信越運輸局が管内のバス事業者に対し、緊急点検の実施を指示〕

別　添

事業用バスの非常口扉等の緊急点検結果について

１．県別・メーカー別集計結果

①　調査は、事業用バス事業者２２０社の４，８６３台について実施したところ、１３２台（不具合率２．７％）の非常口扉等に不具合が確認された。その内訳は新潟が７５台、石川２８台、長野２０台、富山９台であった。

②　不具合の内容については、非常口扉を開放しても警報ベルが鳴らないものが８３件（不具合率１．７％）で最も多く、次いで非常口扉のスットパー・リンク機構等の作動不良・損傷が２９件、非常口本体の損傷が１２件、施錠状態の不具合が１１件であった。

③　メーカー別では、大型４社全てに非常口扉等の不具合が確認され、その内訳は三菱が４９台、日野が４３台、いすゞ、ニッサンディーゼルが共に２０台であった。

２．不具合項目別集計結果

①　不具合内容については、非常口扉本体の損傷では、扉の腐食が日野、三菱がともに４台ずつ確認された。

しかし、これら不具合車両の年式については、古くは昭和６０年のものや最も多かったのが平成３、４年のものであり、長年の使用による腐食であるとも想定され、不具合の原因が設計又は製造の過程にあるとは断定できなかった。

②　警報ベルが鳴らない不具合では、スイッチの故障が交換・修理合わせて６３件（７６％）と最も多く、警報ベル本体の不良９件、アース不良が５件であった。

不具合の原因が同一メーカーの同一型式に集中して発生しているかについては、三菱、日野、いすゞに同一型式で同一の不具合が確認されたが、

ⅰ　不具合車両数が少数であり頻発しているとは言い切れないこと

ⅱ　年式も古く整備不良の可能性もあること

ⅲ　不具合内容が結果のみであるため、不具合の類似性・同一性に係る詳細な把握が出来ていないこと等から、不具合の原因が設計又は製造の過程にあるとは断定も否定もできなかった。

③　非常口扉のスットパー・リンク機構等の作動不良・損傷については、ストッパーのかかりが浅いことや損傷による交換・修理が１９件（６６％）と最も多く、リンクが固い等による交換・修理が７件、受金具交換が２件であった。

しかし、これら不具合についてみると、昭和６２年や平成３年から５年と年式が古く、

給油等の修理により改善されていること等から、不具合の原因が設計又は製造の過程にあるとは断定できなかった。

④　施錠状態の不具合については、上部及び側面ストッパーのかかり不良が６件（５５％）と最も多く、上部又は、側面にストッパーがかからなかった施錠不良が２件であった。

　しかし、これら不具合については、給油や調整により改善されていること等がら、不具合の原因が設計又は製造の過程にあるとは断定できなかった。

３．まとめ

上記調査結果から、非常口扉を開放しても警報ベルが鳴らない不具合や非常口扉やリンク機構等の不具合については、管内全県で発生しており、大型４社全てに渡っていること及び使用年数も大幅に異なっていることから、特定の車名・型式に発生しているとの確認はできなかった。

そのため、自動車使用者の保守管理責任に起因する可能性が大きいと推定し、当面の対策として、管内バス事業者に対し当該緊急点検について周知するとともに、非常口扉等の確実な点検整備の実施について通達を発令し、この種事故の再発防止を図ることとする。

関東運輸局人事異動

異動年月日	新・勤務地	氏　名	旧・勤務地
平成１７年 ７月１日	関東運輸局自動車技術安全部・部長	佐竹　克也	自動車交通局・技術安全部技術企画課課長補佐
平成１７年 ７月１５日	関東運輸局・次長	辻　一郎	(独)鉄道建設・運輸施設整備支援機構技術支援部長
平成１７年 ８月２日	関東運輸局・局長	大藪　譲治	海上保安庁・総務部長